

令和7年8月1日発行
東園お盆号
宗教法人東園寺

宗教法人 東園寺
〒985-0026 塩釜市旭町4-1
022(362)0777 寺務所
022(364)4444 寺FAX
022(362)8651 中央幼稚園

学校法人 東園寺学園
〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51
022(365)5616 第二中央幼稚園

報 園 花 東 園

つた 伝えよう
いのち 命の尊さ
ほとけ 佛の心
こころ



謹啓 時下晴雲流碧の候
檀信徒法縁各位には益々ご清祥のことと存じます。
本年も皆様にお盆法要のご案内を差し上げる時節となりました。

お盆は私達の生命の源であるご先祖様の供養を通じて大いなる縁の営みに支えられていることに感謝し、日々を大切に生きる誓いをする大切な期間です。日本社会だけでは無く、世界が目まぐるしく変化している今だからこそ、形式が多少変容しても、伝統的な宗教の場での祈りはとても大切です。

コロナ禍や時代の変化によって従来のお盆期間中に菩提寺のお参りやお墓参りが難しくなってきたことを考慮し、東園寺ではお盆期間を拡大して供養の受付を行なっております。各位におかれましては2ページ以降の「東園寺のお盆」をご覧頂きそれぞれの予定にあった期日でお参りしてください。

住職 千坂成也 合掌 謹白

心頭滅却。。。

夏日悟空上人の院に題す
三伏門を閉ざして一衲を披る
兼ねて松竹の房廊を蔭う無し
安禅は必ずしも山水を須いず
心中を滅得すれば火も自ずから涼し

こちらは唐代後期の詩人、杜荀鶴（と・じゅんかく 846〜904）の詩です。「三伏と呼ばれる年間でも最も暑い時節に悟空上人という僧侶がしっかりと法衣を身につけて坐禅しています。しかもそこには日差しを遮り涼しさをもたらず松や竹もありません。しかし坐禅による安心（あんじん）は必ずしも心地良い山や溪水を要するものではないのです。心中の雑念を消し去れば火中にあっても心は涼やかなものです。」という意味。

碧巖集という禅の本には「安禅は必ずしも山水を須いず心頭滅却すれば火も自ずから涼し」とあります。滅得が滅却となっていますが、同じ意味と考えて良さそうです。

日本では甲斐恵林寺の僧侶が織田信長公の軍勢により楼門上層階に押し込められ火を放たれた際に、快川紹喜禅師が「心頭滅却云々」と言い放ち坦然として死を迎えたことが知られています。

暑さ寒さにも心を動ぜず！まさに世の中の人が抱く禅のイメージはこれですね！しかし「寒暑に應じて着衣喫飯す」という大切な教えもあるのです。暑さ寒さに応じて生活しなさいという意味ですね。思うに中国や日本は四季に恵まれ、世界的に見れば穏やかな気候と言えるところです。ここで育まれた禅という仏教は過酷な自然を知らません。砂漠地帯や氷土のような寒冷地では「心頭滅却」して寒暑に立ち向かえば、たちまち命を喪ってしまいます。上記の漢詩などはまさに温順な気候の中から生れたものと言えるでしょう。しかし、我々が住む日本も近年は気候が変化し、夏の暑さはそれこそ生命に危機を及ぼすほど危険です。

寒暑に立ち向かわず、寒暑に応じて日々穏やかに過ごすべきですね。そして社会の中で生きていけば、日々何かしらの苦難やアクシデントに遭遇するものです。そんな時こそ心頭滅却！虚心坦懐に対処しようではありませんか！※瑠璃光令和7年7月8日発行 法要の際に配布している瑠璃光は東園寺ホームページでご覧になれます。

東園寺のお盆供養

初めてお盆を迎える方々、新たに東園寺の檀家になられた方の為に当山のお盆供養の日程と意味を紹介申し上げます。

■精霊札(しよりりょうふだ)同封したお札です。

去る7月15日、皆様に送付致しました七如来名号の開眼供養を行いました。七如来は餓鬼道に落ちた者を救う仏様です。お盆中は施餓鬼棚を飾る場合には施餓鬼棚の中央に、仏壇の前にお盆の供物を供える場合には、仏壇の本尊様の脇など本尊様に近い場所に安置してください。お盆中に安置したお札は、出来れば8月16日迄、遅くとも8月24日の午後4時迄に東園寺に納めてください。

■精霊迎え法要

8月12日 午後6時



精霊迎え法要

ご先祖様をお迎えする法要です。本堂内で蠟燭に灯を点して迎え火と致します。蠟燭は差し上げますので、各家

でも灯を点してご先祖様をお迎えください。ご家族揃ってご気軽に平服でお越しください。

※蠟燭の授与は各家に1つとなります。

■お盆のお布施について

お盆の布施は寺務所で受け付けておられます。13日に限らず8月24日までお受けしますので、都合の良い日にお越しください。今年もご供養の証に可愛いトートバッグを差し上げます。

※お盆供養の布施袋は初盆の方以外は赤帯で結構です。正面には「布施」とお書きください。

■新亡供養

8月14日 午前10時

昨年の8月より本年7月中に逝去された方々の初盆の供養です。該当するご家庭には個別に案内状を送付申し上げます。

■戦死戦病没者慰霊並びに世界平和祈願法要

8月15日 午前11時45分

どなたでもご参加頂けます。平服でお越しください。

■地藏盆

8月24日 午後4時

お盆の締め括りの法要です。近畿地方では子供のお盆ともされますが、東園寺ではお盆中の本尊であった七如来のお札を焼き上げ供養を致します。寺内の僧侶のみでお勤め致します。

■花塔婆

ご自分のお墓はもちろん、他の方のお墓をお参りされた際に供養の印にお供えする小さな塔婆です。従来の供花ですと数日で枯れ、お墓を守っている方が掃除をしなくてはなりません。折角の供養が大きな手間となってしまうのです。安価で衛生的な花塔婆供養をご検討ください。

花塔婆一体700円 施主名は寺でお書きします。

花塔婆の予約は8月1日よりお電話で承ります。



花塔婆

古く塔婆について

法要後、1年以上経過した塔婆は本堂脇の古塔婆納所に納めてください。職員のみでは山頂墓地全ての塔婆回収は困難です。何卒ご協力ください。月見墓地など境外に墓地をお持ちの方も同様です。



新亡供養

境内墓地の清掃について

境内墓地に關し、寺が清掃を行うのは通路が中心となります。ここ数年は暑い夏が続き、雑草が繁茂に除草が間に合わない事がございます。8月12日に向けて鋭意努力致しますので、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。また檀信徒各家がお使いになっている墓地区画内の除草や掃除は寺では行いません。ご自身もしくは予め業者にご依頼くださいますようお願い致します。

危険木、支障木伐採について

6月初旬に墓地内危険木の伐採を行いました。墓地内の樹木については順次伐採を進めておりますが、より危険度の高い場所を優先に処置しております。大木の伐採は経費が掛かり、今回の作業も400万円以上の支出となっております。墓地使用の檀信徒各位におかれましては個別の樹木伐採の希望には応じかねますので何卒ご了承ください。

涅槃図修繕募財に関して

《修繕の趣意》

東園寺所蔵の涅槃図は江戸後期仙台藩四大画家の一人と称される塩竈出身の絵師小池曲江居士によって描かれたもので、東園寺檀頭佐浦家によって鹽竈神



不動堂大祭

不動堂大祭

10月5日 正午

東園寺別院不動堂大祭です。開運、健康祈願などを希望される方は是非ご来山ください。護摩木のお申し込みはお盆中より承ります。法要当日は芋煮会も実施します。是非ご自由にお参りください。

護摩木 500円

お札 1,000円

社別当法蓮寺に奉納されました。絵師、奉納者、そして奉納先である寺院がすべて塩竈で完結するというのは非常に稀なことであり、同涅槃図が東園寺のみならず塩竈にとつても大切な宝であることは誰の眼にも明らかです。

明治3年法蓮寺が廃寺となった後は佐浦家の檀那寺である東園寺に所蔵が移り、爾来150年以上にわたり、仏涅槃會に莊嚴され多くの人々に礼拝されて来ました。

本作は絹本彩色で絵画部分が195.5cm×144.8cm。文政4年(1821)曲江居士が64歳の筆であり、南蘋派の精緻な技を極めた曲江の作品の中でも特段に優れたもので、穏やかな表情で永遠の眠りにつくお釈迦様とその死を悼んで集まった多くのものたちが生き活きと描写されています。本作の評価は既に多くの専門家に周知されており、令和4年に東北歴史博物館から本作を扱った冊子が出版された他、多くの特別展に出陳協力致しており、令和2年には塩竈市指定有形文化財に登録されております。

このようにこの涅槃図は社会的に評価を頂いている宝物であると共に涅槃會を通してお釈迦様の教えを学ぶ為の法財であります。当山ではこのように大切な涅槃図であることを認識し、その保管には十二分な配慮をして参りましたが、何分描かれて200年以上経過した作品であり、本格的且つ早急な修繕が必要な状態となっております。

法縁者各位には物価高騰の折、大変恐縮ではございますが募財にご協力賜りますようお願い申し上げます。

坐禅会

毎月第2第4日曜日 朝7時~7時40分

初心者向けの坐禅会ですお気軽にお越しください

参加無料 予約不要



涅槃図

《修繕収支予算》

・収入の部

東園寺志願金 4,407,501円 募財目標 5,000,000円

・支出の部 修繕費用 9,407,501円也

(消費税 852,673円、輸送経費、保険料を含む)

※本作は塩竈市有形文化財に指定されており修繕の際の助成が指定書に明記されておりませんが、塩竈市の財政事情から支出は困難であるとのことです。上記の収支は令和7年8年度東園寺一般会計で処理されます。

《修繕内容》

1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査し、記録する。
2. 掛軸装を解体し、肌裏紙を残して、旧裏打紙を除去する。
3. 浄化水にて本紙の汚れを除去する。
4. 膠水溶液にて絵具層の剥落止めを行う。
5. 布海苔を用い、養生紙にて表打ちを行う。
6. 旧肌裏紙を除去する。
7. 本紙欠箇所を補修絹にて補絹を施す。
8. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。

9. 表打ちの養生紙を除去する。
10. 本紙に美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。

11. 折れ伏せを入れ、折れを直す。

12. 元の表装裂地および新調した表装裂地に、肌裏と増裏を打つ。

13. 本紙と表装裂地を仮張りする。

14. 仮張りされた本紙と表装裂地を掛軸装の形に付け廻しをする。

15. 美栖紙にて中裏打を行う。

16. 宇陀紙にて総裏打を行う。旧総裏の墨書を貼り戻し、仮張りし充分な乾燥期間をおく。

17. 補絹の箇所に補彩を行う。

18. 軸首および端喰は元使いとし、中軸、発装、紐等を新調し掛軸装に仕立てる。

19. 桐製太巻添軸、桐製屋郎箱を各新調し、本紙を羽二重の包裂に包み、納入する。

1カ年目 1〜5及び6の60%を施工

2カ年目 6の40%及び7〜19を施工

を施工

《募財について》

・募財金額：1口10,000円

・ご協力方法：申込書に必要事項をご記入の上、直接寺務所にご持参ください。

・募財期間：令和9年1月31日迄

《記念品》

ご協力頂いた方には記念品を差し上げます。

※この募財は強制ではありません。

涅槃図修繕協力申込書

涅槃図修繕費用として ※1口 10,000円

ご芳名

ご住所

お電話番号

() 口 合計

円